

事後評価報告書(日-インド研究交流)

1. 研究課題名: 「津波予測システムのハードウェアによる高速化とその設計支援」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者: 国立大学法人東京大学大規模集積システム設計教育研究センター
教授 藤田 昌宏

2-2. 相手側研究代表者: インド工科大学ボンベイ校電気工学科 准教授 Singh Virendra

3. 総合評価: (A)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

インド側の研究開始の遅れもあったが、研究スケジュールを見直し、計算高速化のための並列化手法として、インド側ではシミュレーション領域分割による並列処理を、日本側ではシミュレーション時間軸方向のパイプライン処理による並列化に集中して研究を実施し成果を上げた。

インド側の体制が整わず、本格的な共同研究の成果が出るところまでは至っていないようである。また、報告書には相手側の研究成果についての記述がなく、報告書からだけでは、インド側の考案が成果のためにどれだけ本質的な貢献があったのかが明らかでないことは残念であった。

(2)交流成果の評価について

学生を含め相互に交流し、さらに地震研、Infosys なども加えて、研究の実質ディスカッションができるようになった点は大きな成果である。

代表者が頻りにインドを訪問し、日本側、インド側ともに、直接的な交流相手のみならず、相手国の関連研究機関との交流も始まり、交流の幅が広がっているのは、相互に研究チームが信頼しあっているからであろう。日本側、インド側とも素晴らしいネットワークを築きつつあり、高く評価できる。

一方、共同のワークショップなどの開催はほとんどなかったのは残念である。

本共同研究のアクティビティが、当該研究者のみでなく、より広い日印の協力を拡がって貢献していくことが期待される。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

文化の違いや体制・考え方の違いにより、共同研究の遂行が思うように進まない反面、参加した学生の視野拡大には大いに成果があったようである。

FPGA による高速化は産業的にも大きな意義があり、特許化を図るべきである。